

医療安全管理ニュースレター

日本医科大学千葉北総病院
(第35号)

発行:平成29年12月1日(金)



感染制御部より♪

今の病気としての結核

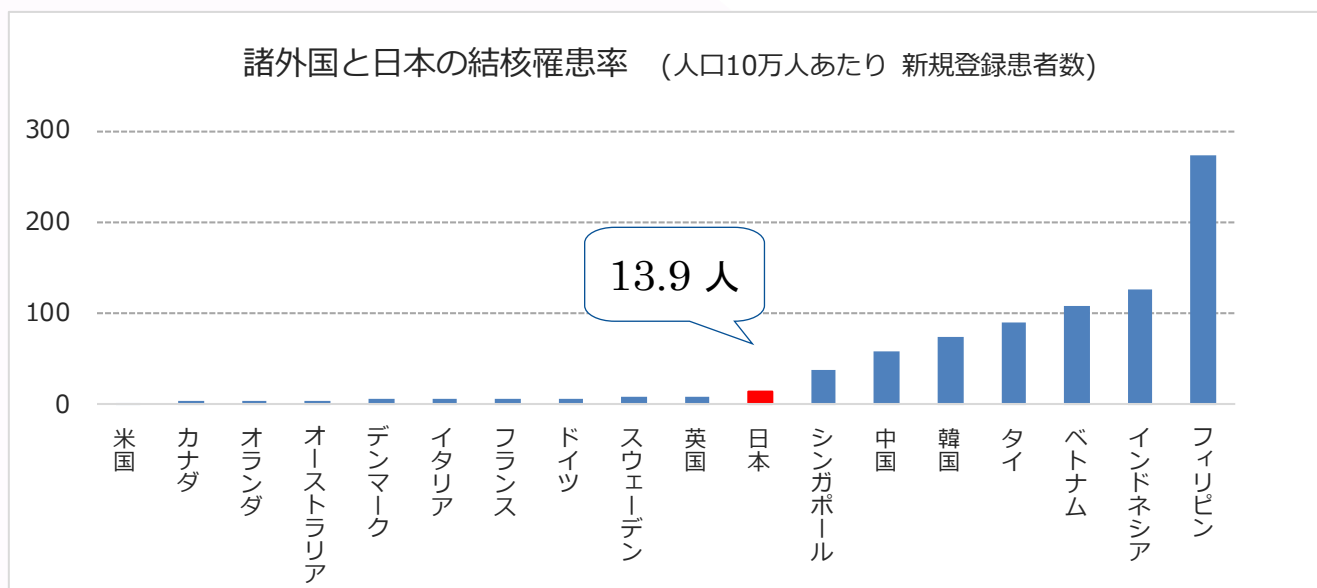
感染制御部 看護師長 感染管理認定看護師 渡辺郷美



1. 結核の日本の現状

厚労省によると、昨年1年間に新たに登録された結核患者は、前年比655人減の1万7625人。人口10万人当たりの罹患率は同0.5人減の13.9人で、同省では「近隣アジア諸国と比べ低い水準にあり、先進国の水準に年々近づいている」としています。

しかし、それでも、まだ先進国と同列での発生率と同じではなく結核蔓延国に近い位置であることは否めません。(下図参照)



Download WHO TB burden estimates, TB_burden_countries, <http://www.who.int/tb/country/data/download/en>

2. 結核の概要

結核 (TB) は細菌 (結核菌) によって起こり、多くの場合、肺で発症します。結核は治療も予防も可能です。

結核は、空気感染によって人から人に広がります。肺結核の人が咳やくしゃみをしたり、つばを吐いたりした時に、空気中に結核菌をまき散らします。人は、少量の結核菌を吸い込んだだけでも感染する可能性があります。世界の総人口の約3分の1は、結核菌に感染しているものの、発症はせず、他の人に感染させることはありません。

結核菌に感染している人が生涯で結核を発症するリスクは10%といわれています。しかし、HIV感染者、栄養失調者、糖尿病患者、喫煙者などの免疫系が低下している人々では、発症リスクがずっと高くなります。



人が結核を発症しても、数か月間は症状（咳、発熱、寝汗、体重減少など）が軽症で経過する可能性があります。これは受診を遅らせ、結果として他の人に結核菌をまき散らすこととなります。結核を発症した人は、1年の間に、濃厚接触者（同居や閉鎖空間に長時間一緒に過ごした場合など）10人から15人に感染させることが可能です。



3. 結核の予防

家庭や学校・会社など規模の大小に関わらず、可能性から言えば、常に感染の危険性はゼロではありません。健康診断の対象となっている人はきちんと受ける、2週間以上せきが続く場合はすぐに病院にかかる、などを個々人が徹底することが重要です。ふだんから、免疫力が低下しないように規則正しい生活を心がけましょう。また、栄養バランスのよい食事と十分な睡眠、適度な運動などが大切となります。なお、結核菌は紫外線に弱く、体外に排出された菌は日光に当たると数時間で死滅します。

4. 乳幼児の予防

乳幼児は抵抗力が弱く、結核菌に感染すると髄膜炎や粟粒結核など重症になりやすく、生命が危ぶまれることすらあるため、BCG接種を受けることが予防として有効です。現在、予防接種法により、生後1歳に至るまで（標準的接種期間は5ヶ月から8ヶ月まで）BCGを接種することになっています。生後1歳までであれば費用は自治体等の負担で接種を受けられます。

ずいまくえん ぞくりゆう



結核は、今も世界の10大死因のひとつです。けっして、昔の病気ではありませんので、結核の予防の内容を参考にご注意ください様お願いします。

【関連ホームページ】

- ・厚生労働省検疫所 FORTH <http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2016/10181157.html>
- ・公益財団法人結核予防会 http://www.jatahq.org/about_tb/index3.html#501
- ・結核の常識2016 -結核予防会結核研究所- jata.or.jp/dl/pdf/common_sense/2016.pdf

リハビリテーションの重要性

リハビリテーション科 部長 松元秀次



リハビリテーションとは？

リハビリテーション（リハビリ）とは、医療の立場からは“からだ”の動きに影響を及ぼす病気・障害の診断や治療を行うことであり、訓練、指導、調整、環境整備などの方法を用いる点に特色があります。具体的には病気や障害の改善を試み、社会的にあるいは心理的に適した状態に導くことをいいます。

リハビリの大切さ

毎日少しずつでも“からだ”を動かし、関節や筋肉を衰えさせないことが寝たきりの予防につながります。日本医科大学千葉北総病院は急性期病院ですが、病気の治療と同時進行で積極的にリハビリ治療を行っています。



寝たきりになってしまうと・・・



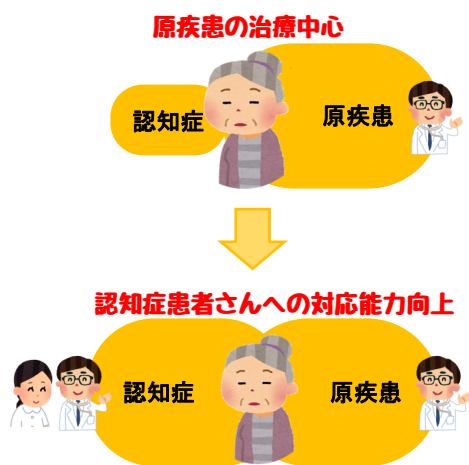
認知症患者への安全の取り組み -認知症ケア加算導入を期に考える-



神経・脳血管内科 部長 山崎峰雄

わが国の認知症患者は、2012年では462万人（約7人に1人）が、2025年では約700万人（約5人に1人）と推計されています。日本医科大学千葉北総病院のような急性期病院にも、認知症の患者さんが、すでにながりの割合で受診・入院しており、安全面での配慮が必要になっています。

当院だけでなく、急性期病院では、合併症があり、医療を必要としている認知症患者さんが年々増えてきていますが、一般に認知症患者への対応という形でしっかり対策を取っている病院は残念ながら多くはありません。通院や入院のきっかけとなった疾患がどうしても中心になり、認知症があっても院内での対応や退院後の地域連携などはおろそかになってしまい、それは安全面での問題にもつながっていきます。



2015年1月に認知症施策推進総合戦略（*新オレンジプラン）が厚生労働省から発表されていますが、そこで地域や医療・介護体制全体の課題や対策指針が示されています。この中でも、一般病院での認知症患者への対応能力向上が掲げられています。この流れに対して、2016年度の診療報酬改定で認知症ケア加算（1・2）が設定され、後押しされています。当院でも来年4月開始を目標に準備が進められており、まずは、この仕組みを取り入れて、十分に活用することで、上記に掲げた当院の課題を少しずつ解決していくことができるのではないかと考えています。

この加算は、身体合併症の治療のために入院した認知症患者を一般急性期病院が適切に対応するための要件を設定しており、それをクリアした場合に算定することが可能となります。

入院してきた患者さんが認知症に該当するのかどうか。認知症と診断された場合は、病棟でどう対応し、ケアの質を高めれば良いのか。こういった疑問を解決するために、多職種チームで介入していくという試みです。当然、医療だけではなく安全面での問題にも同時に取り組んでいくこととなります。



この取り組みの中で重要な事が、医療従事者がきちんとした認知症自体と認知症患者のケアに関して正確な知識をもつ、ということです。認知症患者のケアで生じる問題は、認知症に対する知識不足や誤った考えから生じている場合も少なくありません。厚生労働省では、医療従事者に対する簡便で教育効果の高い認知症の理解を深めるプログラム作成を試みられていますが、これを当院の実情にマッチするように改善したものを作成し、来年度以降に向けて考えていきたいと思っております。

*新オレンジプラン（厚生労働省ホームページ）
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000064084.html>

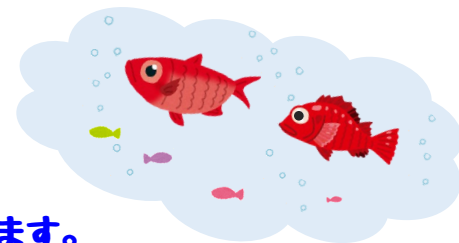
認知症とは？

認知症患者のケアの方法？



認知症患者のケアで生じる問題

正しい知識、理解が不可欠



看護職の働きやすい職場づくりのために、 当院では「FISH哲学」を導入しています。

「FISH哲学」とは、シアトルのさびれた魚市場で働く人達が「楽しくない職場はお客も来ない！まずは自分たちが楽しく働ける環境作りをしよう」と始めたところから発祥した人材マネジメントです。

「FISH哲学」の4つの原理

- 遊ぶ** 楽しく・遊び心を持つ状態や行動
- 人を喜ばせる** 患者や同僚に対し、楽しい雰囲気ですぐに接し、相手を喜ばせること
その喜びを分かち合うということ
- 注意を向ける** 相手の言うことに耳を傾け、自分の注意を向けること
相手が必要としている瞬間を逃さないように「今」に注意を向けること
- 態度を選ぶ** どんな態度で仕事をするか、楽しく過ごすか不機嫌で過ごすのか



「FISH哲学」は、自分が変われば相手が変わる。相手が変われば自分の周囲が変わる。1人の変化が組織の変化をもたらす風土を変えていく。自分という存在が組織の中で生かされ、必要とされているということが実感できれば、厳しい仕事でも楽しみながら続けることができるとされています。

当院では、病棟ごとにお正月、七夕、クリスマスといった飾りつけや、サンキューカード、バースデーカードなど看護職員の交流が深まるような「FISH哲学」を実践し、命と向き合う緊張の職場に笑顔で働けるような職場づくりを行っています。



編集後記

朝夕の寒さも一段と厳しくなりましたが、皆さんは風邪など引いていませんか？咳などが続く場合は感染予防の観点からも早めの受診が重要です。

今回のニュースレターでは前号に続き、リハビリテーションの重要性について執筆していただきました。病気の治療と同時にリハビリを行うことが寝たきりの予防となり、さらには認知

症発症予防となることがよくわかりました。認知症を発症された患者さんへのケアに関しては、専門スタッフだけでなく、すべての医療従事者が認知症における正しい知識を習得することの重要性もわかりました。

最後に、日が暮れるのが早くなる季節となり、少しばかり物悲しい気持ちになりますね。そんな時期だからこそ楽しく働ける職場作り「FISH哲学」の実践は必要ですね！〈有馬光一 記〉



『編集担当』

医療安全管理ニュースレター編集委員会
有馬光一（委員長）・別所竜蔵・金 徹・
花澤みどり・岩井智美・片山靖史・
柳下照子・矢野綾子・渡辺郷美・原田光枝・
宗村麻紀子



【ご意見募集】

皆さまのご意見をお待ちしております。
電子メールアドレス：h-newsletter@nms.ac.jp

【お知らせ】

当院のホームページから閲覧できます。
ホームページアドレス：
<https://www.nms.ac.jp/hokuso-h/>

